

「ツマジロクサヨトウ」に注意

飼料用とうもろこしに発生中

- ・南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアまで**発生範囲を拡大中**
- ・アフリカでは、とうもろこしに甚大な被害
- ・日本では本年7月に、**九州・沖縄で初めて発生を確認**
- ・飼料用とうもろこしで多く発生しており、被害の拡大による**畜産経営への影響が懸念されます**



ツマジロクサヨトウの特徴

飛翔距離が長い、
繁殖力が強い



- ・気流に乗って長距離移動する
- ・1回の産卵数は150~200個
- ・生涯産卵数は最大1000個



・幼虫が葉、茎、子実を食害

幼虫の食害による被害



多発すると被害が大きくなるおそれ！！

早期発見・早期防除
が不可欠



農薬散布による防除



被害の拡大防止のため、

- ✓ 飼料用とうもろこしのほ場を確認し、疑わしい害虫を発見した場合は、速やかに問合せ先までご連絡ください
- ✓ 発生が確認されている地域（※）では、農薬の散布、早期の刈取を検討してください
- ✓ 地面に落ちている幼虫やさなぎを死滅させるため、次期作の有無にかかわらず、刈り取り後は、速やかに、深耕すき込み（目安は12cm以上）してください



早期の収穫



収穫後は速やかにすき込み

（※）ツマジロクサヨトウに関する情報はこちらで確認

(http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)



〇問合せ先

千葉県農林水産部安全農業推進課

電話：043-223-2888 FAX：043-201-2623

**現在、ツマジロクサヨトウに登録のある農薬がないため、
農薬リストの取扱いについては、御留意願います。**

以下のリストの農薬を使用するに当たっては、国が本種であると同定した上で、県の指導に基づき、植物防疫法第29条第1項に基づく、防除である旨の明示が必要となります。

本虫の疑いがある虫が発生した場合には、速やかに所管の農業事務所又は千葉県農林総合研究センター病害虫防除課まで御連絡ください。

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。